

2023年11月19日 週報

主題 ねたむほど激しく愛される神

主題聖句 1コリント 1.18 十字架のことは、滅びに至る人々には愚かであっても救いを受ける私たちには、神の力です。

ゼカリヤ 1:14 私と話していた御使いは私に言った。「叫んで言え。万軍の主はこう仰せられる。『わたしは、エルサレムとシオンを、ねたむほど激しく愛した。』」

1. 愛は人を生かす

1コリント 1.18 “十字架のことは、神の力です。” この力とは生きていく力のことであって、イエス・キリストの十字架で示されている神の愛である。

愛されていることを知った時、人は大きな力と勇気を与えられる。

2. 愛は失意で萎えた心を奮い立たす。

聖書は神様の「愛の書」ということができる。激しい神の愛を示す代表的な箇所はゼカリヤ書 1:14 である。バビロン捕囚から帰国し神殿再建に携わった民は再建工事中止命令が出て、心が萎えて沈みきった心を奮い立たせられたのである。

ゼカリヤ書の背景

BC586年にエルサレム神殿が破壊された後、統一ペルシャ帝国の初代の王クロスはエルサレム神殿の再建命令を布告した。心躍らせて約5万人が祖国に帰還し、翌年に再建にとりかかった。しかし、喜び勇んで着工したのもつかの間、中止命令が出されて、失望落胆の谷底に突き落とされてしまった。しかし預言者ハガイと、ゼカリヤが登場し、民を鼓舞した。中でも、『わたしは、エルサレムとシオンを、ねたむほど激しく愛した。』(1:14)との主の言葉は民の心を突き動かした。3代目の王ダリヨスの調べによりクロス王の勅令が見つかって工事再開の勅令が出され、18年間もの工事中断を経てBC516年に神殿再建は完了した。

3. 神の愛に生かされるために

神の激しい愛の一方、民の側も70年間帰還と神殿再建を祈り続けていた。あまりにも長い期間のため、惰性的、習慣的にはなってしまっていたが、主にある望みは持ち続けていた。神の愛と民の熱望によって神殿再建が実現した。今の時代も神は私たちがねたむほど激しく愛してくださっているが、同時に私たちの側の望みの実現に向かう熱心な祈りを求めておられる。(文責：藤本 圭志)

●本聖日礼拝のお勧めは藤本先生が担当くださいます。お働きが支えられますように。

●11月26日第四聖日より藤野牧師が御言葉の働きに復帰いたします。引き続きご健康が守られますことをお祈りください。

●本聖日の午後は班別集会在予定されています。

●11月の木曜集会はお休みです。

●秋の深まりとともに植物部によって植え替えや手入れがなされています。そのお働きに感謝。

●教会と家庭で結ばれることに感謝。現在教会ではオンライン礼拝がなされています。

●年末年始の予定を確認しておきましょう。

①12月10日(日)青年会クリスマス会。

②12月17日(日)日曜学校クリスマス礼拝・午後日曜学校祝会。

③12月24日(日)クリスマス礼拝・午後お祝会(西村兄、ハンナ会)。

④1月7日(日)聖餐式・事務集会。午後「餅焼き昼食会」(主人会・青年会)

●ハンナ会と西村兄が中心となってクリスマスお祝会の準備が進められていますからそのお働きに心から感謝します。

●日曜学校クリスマス集会(12/17)とクリスマス礼拝(12/24)のお知らせと配布用チラシを用意します。近づきましたらそれぞれ近隣やご友人にお配りしましょう。

●教会ホームページ(<http://www.southside-bbc.com/>)のリニューアルのための準備が進められています。ご担当の義岩兄、雄志兄に感謝。

●「Be a follower」2024.5/2-4 青年フェローシップキャンプ 国立女性教育文化会館(滝山聖書バプテスト教会主催)第一報が届いています。

●健康のすぐれない兄弟、痛みの中にある兄弟に主の良きお支えがありますように。